

第4回世田谷区ピアサポート活動ワーキンググループ ～人と場をつなぐ～への

質問・意見及び回答

第4回世田谷区ピアサポート活動ワーキンググループにおいて、以下のとおりいただいたご質問・ご意見等を取りまとめるとともに、事務局より回答いたします。

※なお、発言者の個人を特定する内容については掲載しておりません

今回のテーマ「人と場をつなぐ」のパネルディスカッションにおける、あなたのご意見、ご提案、ご感想を教えてください。

- ・ 山上さんの具体的な例がとても分かりやすかったです。「総合失調症を語ろう会」では、ピアより、相談会よりでしたが、印象でした。一人で悩むより、話し合いが出来たほうが良いと思った。地域とのかかわりがあれば安心との事も、一人暮らしには大切だと感じました。
- ・ できたらいいなあ！という案は、交流の場にとっては、良いと思います。人それぞれシェアできるといいですね。
- ・ 同じ障害での人達と、わかちあえたらよいと思った。
- ・ ふらっと寄れる定期が月1より各週2でもいいかな！と思いました。集まりは、とても重要です。ピアサポート員さんも大変ですが。
- ・ 居場所は障害者だけではなく、その近くに住む人の誰もが自由に参加できる場所、参加する場所にした方が良いと思う。
- ・ ピアサポートで防災の領域に言及があったことが新鮮に感じました。この分野はまだ配慮が足りていない部分が多くありそうなので可能性を感じています。
- ・ 避難所において精神障害者は邪魔になると身をもって体験しているため、苦い思いがしました。
- ・ 陰性症状が強い時は、家が1番居心地のいい場所となります。人材登録をして、同じ趣味の年が近い人を紹介していただき友達となり、その方と共になれば色々に参加出来るのではないかと、という希望がございます。
- ・ 地域との交流するにあたっての障壁があるのには、驚きました。居場所は当事者にとっては必要です。
- ・ 活躍できる場があれば活躍したいです。

- ・ 本人が興味を持ちやってみたいと言えるある意味の「良い子」「優等生的」な当事者、支援しやすい人々のみが対象になりがちなのがとても残念に思います。そうでない人は「自分には関係ない」とか「自分なんか無理だろう」と参加をしてくれない環境にまだあると思います。ピアサポーターの数を増やせばそこに多様性が生まれ、ピアサポートにより救われる当事者が居るはずですし、本来の支援者によるサポートにフィットできず制度からこぼれおちてしまう当事者を、ここでもまた取りこぼしてしまわないのか、それがとても懸念されると感じています。ここで私のいう「良い子」「型破りなちょっと悪い子」はとても感覚的なものなので伝わりにくいとは思いますが、誰 1 人置き去りにしない為にも、関係各位に最大限の想像力を働かせて頂きたいというのが私の希望です。

【事務局より】

ご意見・ご感想をいただき、ありがとうございます。

今回、「地域にあったらいいな」「やれたらいいな」と思うピアサポート活動について、たくさんのアイデアが挙げられました。特に防災の取り組みについては、様々なご意見をいただきました。防災という地域住民共通の目的に向かい、同じ地域に住む皆で考えていくことや、障害当事者の視点から課題を挙げることにより、より現実的で効果的な防災の取り組みにつながる大事な取り組みとなると考えます。

サポートセンターきぬたの山上さんより、ピアサポーターと共にピアサポート活動の場をつくる立場から挙げられたご意見を踏まえて、今回挙げたアイデアを、次年度から新たに実施する予定のピアサポート活動補助金の補助対象メニューの一例としてまとめ、実際の取り組みにつなげられるように示していきます。また、区が新たに養成するピアサポーターとも意見交換を行い、個々のピアサポーターの持つ強みや希望を活かしたピアサポート活動を目指していきます。

これまでのピアサポート活動ワーキンググループにおいても、「居場所」の必要性についてたくさんのご意見をいただきました。社会福祉協議会の遠藤さんからお話のあった、居心地のよい居場所づくり、誰もが参加しやすい居場所づくりに向けて、支援者、関係者、地域の様々な方々とともに、居場所としてのピアサポート活動の場を増やしていけるよう取り組んでいきます。

その他、本日のワーキンググループ全体を含め、ピアサポート活動に関する意見や提案、感想などをご自由にご記入ください。

・色々な所で色々な形式でピアが行われており、とても勉強になった。

・初めて参加させていただきました。とても勉強になりました。ありがとうございました。ピアとして活動出来たらいいなあと思いつつ、なかなかハードルは高そうです。

・回復のストーリーを語る、という部分に何とも言えない違和感を感じています。回復に物語は必要とは思いますが、繰り返し語る、ブラッシュアップする、という作業の繰り返しにより、物語が硬直していく感じがするからです。もっとフレキシブルにその場その場での感覚的なものにフォーカスした方が、肉体的感覚や感情にダイレクトに届き、治療的効果が期待できる気がします。物事、出来事の多面性が失われるのではないかという事です。多面性や多様性を精神疾患で失っているので、改めて獲得する、または元々多面的に捉えることが苦手なので精神疾患になる面があると私が感じているからです。

誰もが皆相当の善意でとても努力なさっていらっしゃるの重々承知の上で、それでも感じてしまう違和感は普段の生活でも多いものですが、支援の場における違和感は当事者には辛く感じるものです。

上北沢カフェの取組みは初めて知り面白かったです。もっと展開していける可能性を感じて期待しています。

対面でこのイベントができれば感触も随分違ったと感じて残念です。どうにもならないことでしょうけれど。

・家族が初めて精神科病院に入院中です。退院後の生活を考えなければならず、何もわからないところから取り敢えず参加した、という経緯です。行政や社協の役割や、何を目指して、どう取り組んでいこうとしているのか、うっすらと理解できました。居場所の数の少なさは情報収集を始めたばかりの私でも感じていたことです。勉強になりました。ありがとうございました。

・初めてピアサポーター養成、を知りました。

・世田谷区で来年度から新たに養成講座も始まるとのこと。支援が前進され、サポーターが増えることを心から期待しております。

・5回目も参加できたらいいと思いました。

【事務局より】

ご意見、ご感想をありがとうございます。

ピアサポーターが、障害当事者とリカバリーの体験を分かち合うことは、相手にとって、①共に希望を見出すことを手助けする、②信頼関係を築く手助けとなる、③少し先の未来を信じる原動力となる、※とされています。第2回のワーキンググループでは、ピアサポート活動により、「リカバリーのバトンをわたす」ということも共有しました。（※平成30年度厚生労働科学研究費補助金「障害者ピアサポートの専門性を高めるための研修に関する研究」より一部抜粋）

今回、地域活動支援センターこまづがわの稲富さんより、リカバリーストーリーのブラッシュアップの支援を行う際には、思いや希望、状況は揺れ動き常に変化することから、ピアサポーターとの対話を通じて丁寧に寄り添い、サポートしていることをご紹介します。令和4年度より開始予定のピアサポーター養成・活躍支援事業においては、ピアサポーターへのフォロースタッフが、ピアサポーター自身の状況や気持ちに丁寧に寄り添い、「フレキシブルにその場その場での感覚的なものにフォーカス」しながら、サポートしていけるよう検討します。

これまで挙げられた意見に加えて、今回いただいたご意見もふまえ、新たな事業の枠組みや内容を決定していきます。

次回第5回は、いよいよピアサポート活動の創出に向け、対面でのグループワーク、意見交換会を予定しています。引き続きのご参加をお待ちしております。